

キュウリ抑制栽培における褐斑病の 初発時期と初期防除によるA品収量維持



茨城県農業総合センター園芸研究所

キュウリ褐斑病の初発時期と初期防除

県内で、キュウリ褐斑病(写真1、2)の発生は増加傾向にあり、早急な防除対策の確立が望まれています。

本病は、キュウリ抑制栽培(7月中旬～下旬定植)圃場における現地調査により、8月中旬～下旬に初発生することが明らかになりました(表)。また、初発生確認直後に薬剤散布を行った圃場では、行わなかった圃場と比較し、9月上旬の発病は低くなりました。

園芸研究所内の試験(H18)では、褐斑病の初発生直後の8月中旬に薬剤を散布しなかった場合、散布した場合と比較して

その後の発病は高く推移し、さらにA品果実総収量(本/株)では約2割減収しました(図)。



写真1 発病初期の病斑



写真2 褐斑病で枯死した葉

表 調査圃場における褐斑病の初発生確認日及び初期防除実施の

調査年	調査ほ場名	定植日	初発生確認日	初発生直後の薬剤散布日*	9月上旬の発病葉率(%)
H17年	A	7/23	8/12	8/15	17
	B	7/24	8/27	8/30	14
	C	7/24	8/16	-	84
	D	7/22	8/17	-	46
	E	7/21	8/26	-	45
H18年	B	7/23	8/16	-	99
	E	7/23	8/16	-	77
	F	7/28	8/14	8/18	24
	G	7/31	8/12	8/13	15

*初発生確認から5日以内での褐斑病に有効な成分を含む薬剤の散布日

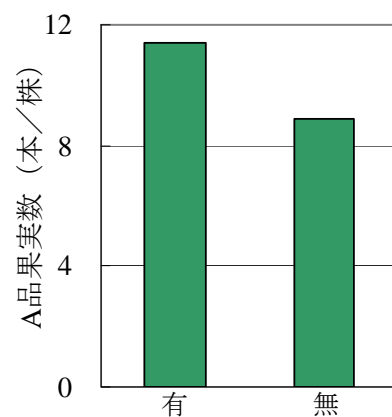


図 褐斑病初発生直後の薬剤防除の有無と9月19日までのA品果実収量の違い

キュウリ褐斑病の初期防除のポイント

以上のことから、キュウリ栽培では、褐斑病による果実品質の低下を防ぐため、8月中旬～下旬は褐斑病の発生を注意深く観察して初発生を見逃さず、初期防除を徹底しましょう。

初発生直後の防除では、マンゼブ水和剤やポリカーバメート水和剤等が有効です。また、発病に急激な進展が見られる8月下旬以降も本病の発生には十分注意し、発生が認められたら早期にフルジオキシニル水和剤やジエトフェンカルブ・プロシミドン水和剤等の薬剤を7～10日間隔で散布しましょう。